

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月7日現在

機関番号：35408

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520557

研究課題名（和文）

日本語とシンハラ語の授受表現 - シンハラ人向け日本語教育文法の構築に向けて -

研究課題名（英文）

Giving and Receiving Expressions in Japanese and Sinhala - For The Purpose of Constructing Japanese Language Grammar for Sinhala Native Speakers -

研究代表者

宮岸 哲也（MIYAGISGI TETSUYA）

安田女子大学・文学部・日本文学科・准教授

研究者番号：30289269

研究成果の概要（和文）：

日本語とシンハラ語の授受表現を比較し、各々の特徴を明らかにした。また、シンハラ語母語話者の日本語授受表現の習得過程についても明らかにした。これらの研究過程で作成したとシンハラ語対訳つき日本語作文データベースは国立国語研究所に提供し、公開した。また、データ分析のツールとして、シンハラ語と日本語の対訳表示機能を持った検索システムを開発した。更に研究成果を生かしシンハラ人向け日本語授受表現指導書を作成し、スリランカで配布した。

研究成果の概要（英文）：

We clarified the characteristics of the giving and receiving expressions in Japanese and Sinhala by comparing them. In addition, we elucidated the acquisition process of the giving and receiving expressions in Japanese by Sinhala native speakers. Contrastive linguistic database of written Japanese by Sinhala learners produced by us was offered to The National Institute for Japanese Language and Linguistics for opening to the public. Moreover, we developed a retrieval system equipped with the function of indicating parallel translations of Japanese and Sinhala. Furthermore, we made an instruction book of the giving and receiving expressions in Japanese for Sinhala learners and distributed the copies to their teachers in Sri Lanka.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2009年度 | 1,500,000 | 450,000 | 1,950,000 |
| 2010年度 | 1,100,000 | 330,000 | 1,430,000 |
| 2011年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,300,000 | 990,000 | 4,290,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学、日本語教育

キーワード：教授法・カリキュラム

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

(1) シンハラ語授受表現の詳細な記述的研究は行われておらず、シンハラ語研究への貢献が期待できた。

(2) 日本語とシンハラ語の授受表現の対照研究と習得研究は初歩的で断片的なものに限られ、多くのデータによる詳細な対応関係を調べる研究が課題となっていた。

(3) 母語別日本語教育文法の構築が求められる中、シンハラ語母語話者を対象にした調査・研究を促進させる必要があった。

2. 研究の目的

(1) 日本語とシンハラ語の授受表現について詳細な対照研究と習得研究を行い、シンハラ向けの効果的な日本語授受表現の指導内容と指導方法を提案する。

(2) シンハラ語と日本語の研究に関する良質な言語研究資料として、対訳データベースを充実させ、その分析用ツールとしての KWIC 検索システムを開発する。

3. 研究の方法

(1) 日本語とシンハラ語の授受表現の対照

シンハラ語授受表現の記述

シンハラ語コーパスにより、授受表現の用例を収集するとともに、シンハラ語母語話者を対象にしたシンハラ語授受表現の適格性を判断させるアンケート調査を実施し、シンハラ語授受表現の意味・用法・規則性を調べた。

両言語の授受表現の対応関係の分析

日本語 = シンハラ語対訳コーパスを作成し、両言語の授受表現の対応関係を明らかにした。

(2) シンハラ人学習者の日本語授受表現の習得研究

授受表現の文法に関するテスト調査

「(テ) アゲル/クレル/モラウ」の使い分けができるかどうかの選択式テストをスリランカの教師・大学生・高校生を対象に実施し、分析を行った。

授受表現が表れる状況の面接調査

依頼・感謝場面でのロールプレイ、「母」「先生」「友だち」「風邪をひいたときに周りの人に助けを求めるとき」等を話題にした日本語会話をさせた。これを録音し、文字起こししたものを分析し、日本語能力試験（1, 2,

3級）別で、授受表現の使用、不使用、誤用について分析を行った。

インタビューの予備調査では、教師相手の会話をさせ、被験者を緊張させてしまったので、本調査では学習者同士の会話を加えた。

手紙文の中の日本語授受表現の調査

スリランカ人日本語学習者に日本語による依頼状と感謝状を書かせ、授受表現の使用状況を調査し、学習者のレベル別で分析を行った。

(3) シンハラ人用日本語授受表現指導書作成

日本語とシンハラ語の授受表現の対照研究と、シンハラ語母語話者を対象にした日本語授受表現の習得研究の結果をもとに、シンハラ人学習者に適した日本語授受表現の指導方法を考え、指導書を作成した。

4. 研究成果

(1) シンハラ語授受表現の特徴

シンハラ語授受表現には、話者の視点の置き方の違いによる使い分けはなく、基本的に動作主に視点を置いている。

シンハラ語の授与動詞denawa（ヤル）それ自体には恩恵的な意味はなく、文全体の意味により恩恵の意味が生まれてくる。

シンハラ語授与補助動詞文の許容度が上がる条件として、前項動詞の示す行為によってもたらされものや事態の具体性があることと、前項動詞の意味に授与の意味が含まれていないことが挙げられる。

シンハラ語授与補助動詞文の受益者表示は基本的に前項動詞の項の格（対格・与格）が保持される。

シンハラ語授与補助動詞文では、前項動詞の項以外の付加的な名詞が受益者になる場合でも与格標示を受ける。但し、前項動詞の項に与格がある場合の付加的な名詞は受益者格（wenuwen：ノタメニ）で標示する。

シンハラ語収受補助動詞文は使役者の依頼や命令を前提とし、この文が許容する前項動詞は、それにより使役者が直接的な恩恵を受けるような具体的な行為を表す場合である。それ以外の動詞は許容度が低い。

シンハラ語授受補助動詞文(wa gannawa)の与益者は、使役者格(lawa, -ta kiyala等)を取るのが基本であるが、前項動詞が奪格名詞句をとれる場合には、その奪格名詞が与益者となることもある。

日本語とシンハラ語授与補助動詞文における受益者の格標示として与格と受益者格があるが、それぞれの用いられる範囲は両言語間で必ずしも一致しない。具体的には、物の移動・授受や接触が想定されることが日本語授与補助動詞文における与格標示の受益者を許容する条件であるが、シンハラ語では物の移動・授受や接触が想定されず具体的な状況がもたらされるだけでも与格標示の受益者を許容する。これにより、日本語の授与補助動詞文において、受益者格(ノタメニ格)の役割が相対的に高くなるのに対し、シンハラ語では受益者格(wenu wen格)の役割が限定的であることが分かった。

(2) 習得研究として

シンハラ人日本語学習者にとって、「～テモラウ」よりも「～テアゲル」「～テクレル」の習得が困難である。

シンハラ人日本語学習者は依頼場面で授受表現を使っても、感謝場面では授受表現の使用しない傾向がある。

シンハラ語母語学習者の日本語授与補助動詞文の習得過程においては、前項動詞によってもたらされるものや事態が非具体的であるものは、具体的なものよりも習得が遅れる。

シンハラ語母語話者による日本語授受補助動詞文の使用状況を分析し、前項動詞の種類により授受補助動詞文が現れる割合が異なり、具体的なものや状況をもたらない場合には、授受補助動詞文が現れにくいことが明らかになった。

(3) 調査・研究の改善

シンハラ語 KWIC 検索システムを作成し、キーワード検索による前後の文脈を表示する以外にも、両言語の表現の対応関係が見られるよう、キーワード検索により対応するシンハラ語と日本語の文章と対訳語彙リストを表示する機能を付加した。

対訳データベース用のデータ入力を済ませシンハラ語KWICで分析できるようにした。

シンハラ語対訳付きの日本語作文データベースを完成させ、国立国語研究所に提供した。

(4) シンハラ人向け日本語教育文法としての授受表現の指導法を提案

スリランカで出版された日本語教科書の授受表現の説明と、スリランカ人教師に対する日本語授受表現の指導について聞き取り調査を行い、いずれも体系的な説明や指導がなされていないことと、最近の対照研究による成果が反映されていないことが分かった。

シンハラ人用日本語授受表現指導書を作成し、スリランカ日本語教師会を通じてスリランカ人日本語教師に配布した。この指導書はシンハラ語にも翻訳される予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

宮岸哲也、日本語とシンハラ語の授与動詞、国語国文論集、安田女子大学、査読有、40号、2010、pp13-24

宮岸哲也、授与補助動詞構文の文法化について - 日本語～てあげる/くれる・韓国語 a/e cwuta・シンハラ語 -la denawa を例にして -、国語国文論集、安田女子大学、査読有、41号、2011、pp13-21

宮岸哲也、シンハラ語補助動詞 wa gannawa の前項動詞 - 日本語補助動詞テモラウとの比較を通して -、安田女子大学紀要、査読無、39号、2011、pp45-57

<http://lib.jimu.yasuda-u.ac.jp/library/reposit/bulletin/02896494039005.pdf>

宮岸哲也、シンハラ人日本語教師による授受補助動詞の指導について、国語国文論集、安田女子大学、査読有、42号、2012、pp19-31

宮岸哲也、シンハラ語母語学習者による日本語授受補助動詞文の使用状況、安田女子大学紀要、査読無、40号、2012、pp7-17
<http://lib.jimu.yasuda-u.ac.jp/library/reposit/bulletin/02896494040002.pdf>

[学会発表](計4件)

宮岸哲也、シンハラ語授受表現の特徴 - 日本語授受表現との比較 -、スリランカ日本語教師会、2010.8.28

宮岸哲也、日本語とシンハラ語の授与補助動詞文 - 前項動詞と文の意味から見えてくるもの -、2011年度日本語教育学会春季大会、2011.5.22

宮岸哲也、シンハラ語母語話者の発話に見られる日本語授受補助動詞文の使用状況、第4回スリランカ日本語教師会日本語教育セミナー、2011.8.15

宮岸哲也、日本語とシンハラ語の与益構文と受益者の格標示について、関西言語学会第37回大会、2012.6.3

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮岸 哲也 (MIYAGISHI TETSUYA)
安田女子大学・文学部日本文学科・准教授
研究者番号：30289269

(2) 研究分担者

加納 満 (KANOU MITSURU)
長岡技術科学大学・工学部教育開発系・准教授
研究者番号：80251859